栖洞室源谷大人辑

今人裴句东风原

一具蓍大人再校

山川鬱勃之气。陶甄

人物。雖曰性情偏一之

三五斐。秉西方金異。

西人謂秉人之初曰秉彝。

余人謂西人之治西
猶未知其治在猶
也此集羅閩余注而
之句。後述跋云。一言可
蔽。其旨至矣。觀畢一年之化矣
余子嘉平月

五山相源述

人名錄

武藏

一蕙 啓山 宇槁 大梅 奎議 太節 双湖 茶靜
素芯 了是 卓郎 成美 道彦 巢兆 可磬 梅令
碩布 千輅 鶯笠 松巢 玉光 菊塢 蕉雨 石膽
林曹 確嶺 久藏 寥松 山峰 八重女 護物 國村
そもき むろこ 袁丁 一司 鶯邨 幸雄 あさ女 舟靜
古陸 應ふ女 洪水 旦く 汝柳 雪雄 完来 謝堂
五繩 石鷄 湖山 馬佛 守光 眞國 梅壽 燕陵
春路 碩齋 台く 禾木 詠歸 竹馬 魚連 粟庵
杜英 帷平 意橘 調意 甫柳女 輝山 十雨 抱儀

史千 東海雨龍 夏桂 禾葉 壽翁 任只 素撲
五老 蒿居 妙子女 文鳳 溪齋 起星 雪光 西庵
車雨 双史 萊石 伯夫 ど一女 魚山 雨籟 石虎
林呂 秋兎 衍乙 豪山 つ多 周来女 ち婆 簣山
斗筵 鶯婆 麻交 太嶺 遊女 鳴鳥 諫圃 白圭 濱藻妾
可布 宝水 對山 秋耳 仙骨 阿憙 相我 鶴布
文貫 五渡 心非 遊女 花照 燕市 米花 五陵 星布女
季道 川蛾 きく女 青牛 雪彦 雲布 几丁 可景
三中 貞秀 鹿車 麥洲 南子 有月 素人 嵐峰
杏蔭 五明 翫壽 觀齋 丁知 墨婆 千賀女 杉香

下總

雨塘 斗圃 江月 桐雨 我石 石鯤 四明 桂丸
李峰 澗里 茶彦 魚淵 東騏 鶴老 秋雄 夜照
古彦 兎郷 蓬呂 竹雫 蒼峨 青岱 廣陵 近嶺
梅史 恒丸 志喬 素廸 汝里 少計 市石 素月
名村 潮月 李倜 李明 桑旦 至長

上總

白老 里丸 三化 尋化

安房

也艸 柿枝 斗白 平雄 海翁 其文 悦二 素共
其杖

相模

葛三安成雉啄左明薰岱淵光三松澧水
玉珂素柏
甲斐
嵐外可都里重行漫々曽人一作蟹守草烏
草丸
信濃
一茶長荘素檗斗文琴齋素鏡白堂叢
如陵蓉齡希言若人葛古一桃雲帶桃隠
芳汀武曰兎國文路正阿八朗韜光米丸
如水

上野

壺半鶏周鹿太茅丸乙人浦人幽子寥山
六蓑山呂酣古釣垂月鴻

越後

芝蘭錬齋蓬杣尺舎集古月敏季珉靜寛
荘村雪齋東峨石海天涯寛路藍洲椿州
之徳五岘守雄亀石杉亭可英悟明左右流
三文了々迎孫石卵春翠石柴素兆石腸
宇弘士栗越塵蝸堂路成北洋桐堂朱潤
田都喜歸鳥春雄其流五雲春坡菅詩蕗村
霞江文思乙良梅仙耕齋乖山玉聲豊石

野人文沖奈岐沙左来春分攀桂幽牖貞居
菫水昇魚萬里松汀梨甫ちかう文流里秀
直上鷺齋呉洋甘雨雲潭月兆東郊年眉
素月卓齋為草投魚巴水楚蘋亀寛如柳
歓舟旬和可登居静松陵里遊方夜駕虹
補石且来令齋棠郊文哉可庸友麻應泉
尺苔曉古鼓吹松畝二川卓二

佐渡

良談菊古箕山周齋北岳負米上風後川
楚弓淇竹芽齋淇翠和逸魯山

出羽

太橘民城可貞曉花玄子乙貞玄ゝ二丘
古翠閑鵜袁休深澤咫雲五牛御風文河
二了豊居文桑五明吹霞石砧天山淋山
仙風一海貫山五井松徑稲舟豹左乙蝶
吟歩以文亀了渭虹左洲雄島稲州涼詠
渭南巴陵志蘭麗令禹丈杜園峯梅蕙谷
如仙梅年宇嵩璇山不材可叟呉秋知兮
乙鴻司曉渭貞四松もとか如先一旧夏溪
呂竹珍洞漁嵐戈比五峯英李楓二棠仙
山水稲丸川長蒐外う種要柳く李開野松
志省桃史卜戈旭甫

乙二沾橘多代女龜丸女きく女長蘆辰子鵜淺
萍汲南山相蓉李冠葛路一之勿言搠明
左琴拱城葵窓素竜冥〻芳齋斧彦黙巣
建齋雨考文骨素考三平子竜露秀南歌
乙調玉扇梅溪東峨琢亭卓堂東琚鐵船
布山聿終凡二一仙馬遊東里曰人檐六
蘆川松朝吐月眞澄雄淵谷雄十竹柳村
千里與人桂裡春岱ノ堂如九玉鉉蕉窓
甚人一與馬鼬湖南一毛露〻北溟蘭叟
東曉二秀麥園夕山草琚雪人芳林白鳩

可月如鸝御佛馬午曉山東明可耕起得
南兮春嶽楚臼舜母其道素月竹馬文翠
白鵬李大世竹蒲節江三千秋傑女蘭中
尚巾乙彦汀左雨村松圃鴈四菖水枕流
玉之一遊紫蘭一湯子介望湖鳳車蘆帆
九畦旧邨蘭溪露鳥麥紗松蘿葛父斗南
百非乙村甘之英之布席橋太北呂三瓶
欣雅詩丸半溪有水白雅汎兮士由米谷
摶遊如雄来車完周羅堂半侶子容婷〻女
一釣揚鶴竹兄一路如往椿齋如髪雨芳
青良大費素鄰淇水平角阿堂紫明空記

あやる巣居不流かつ山厚五陵秋蘿袖玉
阿亭淵水鳳毛湖秋一竹百舉丘住蘭兮
樵翁李席心阿甫十菊人章流南壺月哉
甫山錦之三枝貸泉楚雀月蘆

下野

天堀陶里曉鳥原水梅二白松梅溪草雨
星谷丸二龍川皎ミ百樗真淡蕉水凱山
牙溪巴螢志靜百磔嘯山其翼晚鼓号涯
兎水曉雨魚ミ一夢道雄

常陸

民枝
呼友石翁乙ム杏五介青藜湖中

谷從安隣里芳方居聽雨東止苔山杉外
小簑野巢一徑由之つ孫安釣魚千宵左裡
得雨靜山湖平素涼柳美甫月藏六戴星
聆眉太珉李大温文有佐雨夕篤夫陸波
柿丸思文范父杜年眞彦左乙柳至只幕
山笑有美素有蘭月万丸藤和奇梁洞月
長哥芳之知聲井知素白其春有輔蚤浦
画扑里梁東林器友小嶺笠山太青呉竹
嵐兆松江麥門素英梅吾梅園三有雨及
守山泰雄罷平一止與秋風也半圃左文
松左茂木女其后和琴滄水夏婁啄秋覗外

春之上

正月　初丁　閏正月
元朝　二丁　立春
初雞　初鳥
今朝春　御代春　丁
國春　四方春
年頭　年始
初夢　東風
松飾　門飾

睦月　年立　初花　初春　君春　早春　年玉　年男　四丁
元日　空霞　明春　御慶　門松　祷葉
歯朶

鍬蓙　屠蘇
蓬萊　小殿原
福助　いそのつむ
三ケ日　水祝
子日　小松引
七種　莽囃
松内　松過
万歳　猿引　八丁
羽子板　遣羽子
粥杖　縣呂
福壽艸　鼓臺
歯固　数子
初暦　書初
御降　二日　五丁
福壽　福茶
人日　若菜　六丁
七種過　七丁
星佛　懸想文
若戎　偬儡師
胡鬼子　九丁　寶引
左義長　御忌
芹　蓴
佛座　十丁　すゝ菜
初草　若草
木芽　十一　茶木芽
凡前梅　十四　夜梅
浦梅　海辺梅
野梅　里梅
紅梅　十六　松若緑
芽柳　十九　挿柳
百千鳥　廿二　白魚
蛸　養父入
若和布　餘寒
萱草蒔　豹子草蒔
草ノ芽　芽
桐芽　梅
折梅　十五　磯梅
川辺梅　山谷梅
宿梅　散梅
松花　十七　柳
椿　二十　鶯
蜆　蛤
海苔　青海苔　廿三
春寒　凩返

霞　朝霞　廿四
峯霞　野霞
春霞　草霞　廿五
雪解　雪汁　廿六
水ぬるむ　暖
佐保姫　廿八　山咲

春ノ中

二月　廿九　衣更着
涅槃會　三十　西行忌
二日灸　初午
彼岸　朧月　三十一

夕霞　山霞
江霞　濱霞
月霞　春風
春雪　淡雪
雪雫　凍解
麗　長閑

朧夜　春月　三十二
鳥交　鳥巣
燕　三十四　鶯　三十五
春雁　帰雁
春水雞　春鳥
虻　蛙

春夜　三十三　春宵
巣立鳥　雉子
駒鳥　松茸鳥
雲雀　雀子　三十六
蝶　蜂　三十七

飯蛸　三十九　猫恋
陽炎　糸遊　四十
焼野　山焼　四十一
苗代　種蒔
獨活　蕨

蛙子　三十八　田螺
春鹿　鹿落角
紙鳶　出代
畑打　田打
麻蒔　蕣蒔
土筆　杉菜　四十二

虎杖　春草
苣　菜花
茅根　菊植
接水　苗代菜莫
初花　彼岸櫻

春之下

沂生　平五　上巳
草餅　四十六　雞合
梅若忝　壬生念佛
春日　四十七　春空

蒲公英　蘭
山葵　四十三　蒸姑
番椒植　枸杞
初櫻　待花　四十四
糸櫻

曲水　雛祭
汐干　安良祭
永日　遲日
春夕　炉塞

茶摘　蚕
朝櫻　四十九　夕櫻
散櫻　八重櫻　五十
花盛　五十一　花曇　五十二
花雨　花雪
夕花　五十三　夜花
散花　殘花　五十四
海棠　五十五　李夷
木瓜花　五十六　木蓮花
櫻草　櫻麻
芽花　五十七　草麥

山櫻　四十八
夜櫻　月前櫻
遲櫻　花
花曇　花風
花雪吹
月前花　花見
花守
桃　梨花
躑躅　山吹
李花　連翹
藁縷　菫
青麥　母子艸

藤　麥鶉 五十八
呼子鳥　引鴨　鳥帰　雲入鳥
別霜　春露 五十九　櫻鯛　若鮎
春山　春海 六十一　春雨　春人 六十
夏近　惜春　春別　春過
春暮　行春 六十二　三月尽　春雑

夏之上
四月 初丁　卯月　初夏　来夏
更衣　綿抜 二　袷　夏衣 三丁
浴衣　單物　青簾　筑摩祭

灌佛　佛生會　花御堂 四丁　夏籠
夏花　夏書　夏念佛　青さし
蟹醬　鄭　松魚　麥秋 五丁
穗麥　麥刈　青嵐　牡丹
芍藥 六丁　蒜子花　花菱 七丁　鳶尾花
罌粟　蚕豆花 八丁　茨花　卯花
卯花腐　若楓　若葉 九丁　青葉 十丁
葉桜　木苺茂　木下闇
散松葉　桐花 十一　金柑花
杜若穀花　柿花　柚花　初茄子
茄子　筍　花茄子
蕗　蓼

郭公 十三　鴽入音 十三
鵲　古通鴨
葭剖　蒼鷺
子規　蝸牛

夏之中

五月 十六　皐月
菖蒲灸　菖蒲羹
印地打　粽
加茂競馬　竹酔日
蓮　藻花 十八
瑞午　菖蒲
軒菖蒲　菖蒲湯
懺 十七　藥日
蓮浮葉
萍　苔花

老鶯　鳲鳩
夏鴨　剖葦鳥
杖蛙 十五　蠶
蚰蜒

百合花 十九　紅藍花
瞿麥　野撫子 二十
懸釣草　酸漿艸
苔草　覆盆子
栗花 廿一　椎花
花橘　樗
竹皮散　瓜花
早苗　田植
田草取　早乙女
蚊・杜 廿五　蚊遣火
蠅 廿六　蝙蝠

夏菊　紫陽花
石竹　蓂
南天花　合歓花
若竹 廿四　栗蒔
青田　青田
蚊 廿五　螢
水雞巢　鳰浮巢

水雞　鵜川　廿八
羽抜鳥　鴨子
火串　蛇脱衣
五月雨　梅雨　三十
五月晴　虎ヶ雨
明安夜　夏夜
紙帳　三十三　帷子

夏之下
六月　三十四　水無月
夏氷　氷餅
氷室守　氷賣
一夜酒　祇園會

鵜繩　翡翠
鹿子　照射　廿九
鰺　五月雲
五月闇　船風
半夏生　短夜　三十
夏月　蚊帳　三十二
夏羽織　薄物

富士詣　土用　三十五
炎天　日盛
雨乞　雲峯
汗　汗拭
竹婦人　抱篭
風薫　打水
葛水　冷麥
冷飯　香需散
夏柳　土用芽
薄菜　夏草
麻　麻刈

蚤　十
夕立　三十六
扇　三十七
日傘　三十八
暑　夏霧
團扇　尊
納涼　三十九
晒井　四十
清水　水飯
水粉　葉柳
百日紅　河骨　四十一
凌霄花　葎花
青芒　鼓子花
葛花

夕顔 四十二　新麥
蚤　蜓
鮎　四十三　川狩
夏神樂　御祓
芽輪　昼寝
夏野 四四　夏海
夏雜

俳諧發句吾都麻布理上巳録終

正月

正月や　陸奥乙二
雪の降ほどもなれば種の月
正月や　江戸一薫
雪の降ほどもなれば店も姓の苔稽
正月や　相模茗山
雪の紙燈ともしき秋の家
正月や　出羽大橘
雪もまるまるものある門田かな
正月や　越後芝蘭
雪のいとまなく下るる猫

凪　火取虫
蚋　毛虫
沖鱠　祭
名越　形代
夏痩　夏山
秋待　晩夏

元日

睦月

閏正月

雪や上そ〻ろ〻ろ　陸奥　ゑよ女
雪もそや雪もそれ〳〵人の声　常陸　乳丸女
雪のそもそも〳〵人の数　石菊
雪をそのそ〻ろ〻ろ月和哥、乙人
雪ふ〻ふ〻ふ〻と十六夜　信濃　涼谷
雪のふ〻ふ〻ふ〻

初空　初空や浪よりつゝく雨の脚　高三　下総　雨塘
初雁　初雁やそこともわかぬ雲のあるに　越後　錬斎
初鳥　初鳥きくや二川越る舟の上　江戸　蓬拙
初霞　初霞二日より雲むら山の生るゝ　陸奥　素芯
明の春　明の春芥子流せし一夜小川の末　江戸　辰子
今朝春　今朝春一夜小川の末　出羽　鵜渓
清代春　清代の雲脂粉の色浅し　常陸　素葉
花春　旅人不生まるゝ花の雲　乙人
君ゝ春　君ゝ春五葉の松も二葉より　江戸　貞
國の春　國の春地形もそこ〳〵に峯の雲　成美
四方春　四方春きそひ立たる山々の雲　仝
初春　初春や四方の山の一重霞　一昊
早春　早春や二葉も見えぬ野辺の雲　一蕙
年頭　年頭や二日も雪の山のこる　素葉　安房
年始　年始やそこ〳〵寺も見ゆる野の竹　也州
　　一昊

門松　門松のもとゝする事は
松飾　松もや　ありし
門飾　門ゝまつ　ありし
墨朶　墨朶の
楪葉　楪葉
飾葉　飾葉
屠蘇　屠蘇
薬囲　薬囲
数子　数子

雨塘
一蕙　陸奥　萍沙
葛三　全
一茶
南山
乙二
葛三　出羽　暁名
大梅

清慶
羊玉
初夢
東風
恵方

蓬莱　蓬莱を指すなり　江戸　双湖
小殿原　ほうらいのけしきをかきの葉　陸奥　可磨
初暦　さてさてせまい産まれ小島哉　越後　李翁
書初　書初や大きをそよ伊勢屋　越後　集古
福引　かくよくもあつまる物や福引　仙台　桐蓉
蓬つむ　春こやの福引ほどまもあり　江戸　栗北
除降　いつもやむ世を人ごろもを　武蔵　頑布
　はるかりや山もかすみの国の春　江戸　梅令
　はるかりなまとあるを　乙二

二日　二日ぬ初湯へうかぶ　常陸　一具
　なでもやうふくろ雨二百ぶ　湖中
　古ともの会数ぶを二百ぶ　一薫
　寺へまいく二百ぶ　涼谷
三ヶ日　菓の頭やく二ヶ日　谷侯
　三ヶ日や菓子折きるも武家法　出羽　玄子
　月をまちそもさも待人　頑布
　風雅ものこの子ふしや福寿草　葛三
　福寿草まつ人梅植　越後　了是
　松の内そのの色うつる　同　敏
　山風の床柱ほのかなる　季祇

若菜

人のもやりくる春霞
人のもやりや霞ならん
　　菜
摘小菜毋春あさき野辺
めそそそふる手もとかな
　　江戸　等益
苔むすまるる雪ふかき
　　玉光
雪そそぐ一雨ごとに
三寸もの伸もせぬ葉哉
　　出羽　乙貞
若葉のむせかへる賛宅かな
　　越後　静寛
若葉の風にもまれもまれて
　　荏村
青みそふ弱柳の枝
烟よりやすらふ糸の
　　陸奥　乙二
　　菖蒲

人日

　　菜北
人をとどめ根深刻みて
　　宇橋
摩羅をおしてなほ寒き
　　江戸　子輪
雪ふりつもる黄菜哉
　　一具
ふりつもる雪や小松引
　　甲斐　嵐外
きて別れをつらひや小松引
　　谷径
松引くや洗ひあらはす寺小屋
　　下総　江月
小松引くや通りぬきくるも寒き
　　涼谷
人のもや霞をいでて山の上
　　宇橋
人のもや霞冊をもむ校の窓
　　葛三
人のもやれてある山の月
　　飛驒　女

七種

蓑曬

七種過
子日過
松の内

松過

星佛
懸想文
百韻

陸奥　鶯笠
江戸　通彦
出羽　古翠
陸奥　左琴
常陸　安隣
越後　東籟

猿曳　武蔵　国村
着戎　讃物
傀儡師　素袋
羽子板　全　道彦
遣羽子　乙二　京谷
胡鬼子　陸奥　素說
寄リ　信濃　琴秋
秋　江戸　讃物
縣召　越後　石渡
左義長　乙二　谷徒
あの細き声ほそくも四井の弟や師しく
三越寺やうくや第一さの色のなき
る仙の業うもそ一ゝ色語
男女の姿も甚ゝ秋の語
内意の境死のなりとき
聖の名を二百そのうも物書のよ
陸奥　芳彦

蕗薹　芽　蕨

蕗の薹のつくしあり　筠雪舟　一具

蕗の薹や厚葉の蕨の萌　一慧

蕗の薹のつくしを採るとうたひ　久臧　陸奥

蕗の薹も匂ひもさすや蕨萌　等彦

蕗の薹芽よりさきの蕗の匂ひ　雄嶺

蕗の薹芽のつくしを採るとうたひ　蕗菜

蕗の薹を根共煮　雨考

蕗の薹も蕨も採るや蕨萌　乙二　江戸

蕗の薹のつくしを採るとうたひ　まるき

蕗の薹のつくしを採るとうたひ　蘭物

蕗の薹　月敏

すゝ菜　乙二

薺茅萌　文骨　陸奥

物の芽萌　涼谷

初草　素考　相模

蕗の薹や厚葉の蕨の萌　安成

蕗の薹や物の芽初草萌ゆる　道彦

蕗の薹や物の芽初草萌ゆるころ　等三

蕗の薹や物の芽初草萌ゆるころ　乙二

蕗の薹や物の芽初草萌ゆるころ　等玉

若草

草名蚕芽

木芽

桐芽

梅

素志

陳参

乙二

陸奥

三平

冥々

素檗

芦

表丁

地卿

涼谷

栗眠

九二

萬三

一昇

越後

天涯

陸奥

子龍

古翠

出羽

表休

江戸

一司

五介

出羽

栗澤

道彦

成美

大梅　江戸　鶯卵
幸雄
素芯
〃　陸奥　露秀
南歌
道彦
路栄
出羽　昆雲
五牛
素葉　江戸
多久女
〃　越後　寛路
亜洲
子路
八重女　陸奥
乙調
玉扇
梅渓
葛生

藪屋おきのぶやうめの雪　菓水　越後
梅咲や數寄屋を小職人　椿州
又ぬしと梅かをりけり二月哉　砧山
建初家もつくろひ乃ふき哉　全
淺茅生やうめの雪　陸奥　東峨
猶殘梅や梅のつぼみ月夜哉　琢亭
俤しそ梅の一木　蕪雨
梅一木雪ふこのうれぬ夜哉　江戸　あさ女
曉や淺のうめのさくら哉　舟静
大雪やふり殘されし梅もどき　一昊
梅の咲くや相州　下總　我石

梅の香や分入のぼる山の奥　嵐外　江戸
梅咲や垣をおしわくるまの轍　古陸
社人の扇移すやうめの雪　庭く女
筋違ふ家見えそめて梅もどき　古節
梅咲やみちもせに人の出盛　全　常陸
きのふ見しかたへ梅もどき　方居
梅咲やみくまの人の名ハしらず　雅嶺　上総
本牧をかすむ夕や梅の木　白光　江戸
古もう咲つれうき梅の木　湛水
咲ひ人の手ハ梅そふ山路哉　旦く
　古翠

岩木撲富を誇る梅咲や　寥松

梅咲や庵を法華の法華経　菊塢

油人や笠鞋もとむる梅の垂　越後　之徳

垣を梅ふきまるる日数、　五峨

晃耀や井戸のそこなる梅の　乙二

なかりや梅咲く人の古住日記　全

乾鮭のごとくに人や梅咲きし　出羽　帥風

垣ごしの梅や鏡の下一　きそ女

大竈のもゆるまゝなる梅の香　相模　雅啄

人ぶりや田舎の茶花梅ふゝ　玉光

老ぬるやうの梅哉　雨塘

月前梅

木町を指くる雪や朝の梅　山峰

影をおのが主迎ひや人の梅　江戸　汲柳

一様を芭蕉ともなく梅の香　頑都

淡雪とえもいはれぬ梅のさま哉　陸奥　卓堂

曙や氷乾坤さうめの香　涼谷

宵闇も除くやうなる梅もあり　全

梅の香や昨日の雪の園の月　東路

乙貢

夜梅

梅の月まことに更行く夜半哉　乙二
梅の月夜の上ふみ通りけり　常陸　聽雨
梅の月夜の上ふみ通りけり　東止
梅の月むらひとつをつゝむ雲　武蔵　天涯
折折よりくまなき梅の光　越後　星崎女
十六夜の梅やほのぐらき　守雄
名梅や雪ふりつもる枝の松　東哉
梅ちるや枝のかずの海もあき
春の梅春の海を匂ひけり　下総　李峰
名梅や島ふみ行むら雨の夜　江戸　宅来
梅白し雪もてりそふ九女

折梅

折梅や窓をとぢ込む雨の雪　乙二
梅折や踏みくれぬ霞の朝　一茶
雪ちるや折ふしくらき梅の花　筑後　良渓
二階へもてなす梅の香　湖中
折燃のまゝにされくらめの林哉　雅嶺
梅折ふきりくと迷ひ出けり　江戸　松菜

破梅

散梅や人の入梅の夜の雨　梅令
散ふらぬ柳こぼれり梅の花　江戸　謝堂

浦梅

咲梅の島ふみ渡る小船哉　武蔵　五縄
三日月や海へさし出る梅の枝　越後　亀右

海辺梅

川辺梅　　一薫
山谷梅　　之徳
野梅　　大梅　陸奥　鐵船
里梅　　八重女　越後　杉亭
宿梅　　萬三
散梅　　蓬杣
　　鴛笠
　　乙二
　　道彦

紅梅　　一貫　陸奥　布山
　　雉扇
　　獲物　武蔵　石鶏
　　湘山
　　棠北
　　古節
　　玉光
　　可葉　越後
　　舟翁

柳

松若緑
松花

新梅ふ大根のなくなり　成美
新梅や小貝のころ日和　出羽　文河
新梅もえもやらぬ稚あの雲好　桐雨
新梅のほ和やかにし初不動　安房　指枝
新梅を幸路ほりおタ日ぶ　八重女
新梅をあてゝやくも敲下僧　常陸　苔山
新梅も今新ふ仏ふ多ふり　道彦
新梅や岡の垂ゝ雲ほ優院　大梅
新梅や一年てよしろみゝ　一昊　江戸
ふ二川やゆふるくゝそ松の雪　馬佛
ふの新ふうをそふり松の雪　茶静

とゝやゝ婦のなゝ松の雪　あさ女
松ふ雪とゝさやゝ雪ふ雪ふゝ
淡雪のたゝりくゝ雪ふゝ　菖三
淵さけく僧の出て雪ふ梅ふ　天涯
書梅の雪ふくゝふり茶の経、　出羽　二了
湖水梅洗とゝて雪一つ梅ふ　沸風
雪ふの礼ふけゝく一り柳ふ　素龍
ふゝ雪の梅ふよゝその高ふ、　陸奥　凡二
雪ふ礼をゝまゝ梅のふゝれふ　鴬卵
余の雪ふもあいの礼ふゝ梅ふ　蕉雨
茶ふ雪ふ換のゝふ雪ふ柳ふ　下毛　天魏

青柳や伊勢一見
青柳や湖のむこうの人もどり　全
青柳や中々きらぬ雨の糸　越後　悟明
御舟の漕ぎ和ぐ柳哉　左右流
ほそ〳〵きえぬ柳の煙哉　道彦
青柳をおろ〳〵掛る柳哉　大梅
青柳ふるめく〳〵れ〳〵芽出し哉　江戸　守光
青柳をハらり〳〵と不参る柳哉　碕山
あら〳〵のつゝみのきしや柳哉　宇橋
守人もなくてさき柳哉　庵ゝ女

垣ゆふく青まつのほそく柳哉　之徳
よんほそ〳〵と破れふく柳の末や哉　古節
門前の流〳〵つゞく柳哉　桐雨
岸辺を双のかゝく柳哉　常陸　路雲
稲村を町家ふまぬ柳哉　巣北
雑踏さの雲の門〳〵柳哉　全
旅人のふるしてゆく柳哉　陸奥　仙一
青柳をみやこへ〳〵の街道、馬遊
おりろや柳の下の茶屋人〳〵　成美
傾の青く暮ゆく柳哉　出羽　豊居
ゆく〳〵も不見送りて柳哉　湖山

春物や美しき夜着 筍 三
雪ぐえのはとろめ〳〵も夢の如き 上毛 壷 半
夕雲や柳をめぐる雀の子 〃 雛 閙
春物や人こと〳〵恋の猫 〃 素 芯
春風もうまし柳も出そろひ 〃 〃
入口ふ物の鈴なる四軒外 〃 女
雑こそ好りのかくる柳 外 越後 三 交
柳とも坊主ともつかぬ月夜哉 〃 陸奥 素 葉
なくなく柳えをく雪どけ 〃 東 里
えをきふんの落ちく柳外 〃 曰 人
一年の春をこゝろの柳哉 〃 雙 物

暖気さそはれてく柳外 歌 栄
春物や白刺しそめの帯 〃 江戸 英 國
大根の味もさまざまに柳外 〃 梅 寿
うれと物いはぬ柳外 〃 雄 巌
春二日まちく柳の夕外 〃 〃
上弦の月さす門の柳外 〃 常陸 杉 外
柳より近寄そめし音の内 〃 小 葉
強剛うな気ハうせぬ柳外 〃 鈎 魚
まつあとの二月もなき柳外 〃 等 笠
生姜うり物知り柳外 〃 涼 谷
小振の柳をふりにさす 〃

芽柳　芽柳を見ぬ人のため　乙二
挿柳　芽柳や大津人形の味　大梅
椿　来〳〵やそれもそこ〳〵梅　菖三
　ちるの秋ふあく〳〵とそ椿さま　〃二
　如椿鬼門殺ろ矢のおけ　江戸　全
　あのそりと冬木の井の椿哉　下毛　燕陵
　う〳〵川を東野の酒も椿哉　春路
　あれもこれもおもひ出ある椿哉　道彦
　旅人の姫育つ椿哉　右翼
　ここも椿も月のまて哉　陶里
　恒つきもうもれ出る椿哉　一蕙

猪を追ふ声も椿哉　子輪
堂守の浦物ふるつまき哉　谷花　出羽
ちるの迷ふけく彩芙蓉椿　文葉
杉閑とそれハおなじき椿哉　蕉雨
大悦の来く浪ろく椿哉　下毛　廉太
芙蓉ちさうな花ある椿哉　大梅
茂椿その如うつくしき　杉亭　陸奥
手枝ふたまりく咲る椿哉　梅六
ふくもよりや椿の遠もる　芦川
椿茂る陰椿まつ咲る　素芯
雪もつるゝ椿哉　等釜

鶯

鳴初の頃より 枝ぶり 表休
弁場の風景 ある女
渡雲不去 捕獲物
未住 梁を 宗谷
稀 多村や 仝
梁ふるよりの 頑布
梁といふ 陸奥 八五ヶ間
梁や小用かく 松朝
梁やうにき 一 ヶ
梁や渡り 甲斐 戸口 、
梁ふ作を 可部里 吐月
梁鳴

梁ふ雲ふる 寛路
梁や新日 出羽 八重女
梁やのとり 越後 子く
梁ふ打ち 、 遊弥
梁よ仮粧 乙二
梁や七日 大梅
梁やよく 五明
梁や百迄 玄子
梁ふ啼の 守光
梁の声小 下総 石親
梁鳴く 下毛 道旌

百子鳥
白魚

蜆　成美
蛤　陸奥　雁渕
蜊　遠彦
養父入　仝
海苔　等窓
海苔くめハ跡すまのうらや　素芯
まのうらや汐も遠ふ小汐笠　茶静
うら汁いつとなく松の風あさり汁　ゟ女
鄙ぶりや和て名残の夜の霞　素芯
鄙入や汐も尼の妻小汐笠　涼谷
双六の七目のさきの明ぬ夜　袁林
多代女ふかき海辺を見ぬ夜　乙二
山もの茗荷賣こむ明ぬ夜　江月
青海苔　常陸　一径
若和布　古巣
餘寒　出羽　天山
春寒　出羽　石砧
青海苔　在江戸　台
若和布　素芯
餘寒　越後　東峨
春寒　古節

冴返

霞

さくら汐美の字や朽もろひ　江戸　禾木
もも咲て寐不足そそくさくる　佐渡　菊古
菜畑の松植ふやす霞哉　雄嶺
まとゐ共尽ぬ根ふかき霞や春大る　子格
寺の森人の出さくすく霞ける　馬佛
霞ものや茶は煙とも出ぬ　堅菜
ことしかく芒もかしこく霞む　素芯
霞ものや三里利ふまひろく　陸奥　谷雄
本まつて霞せき入る瑞巌寺　十竹
霞ものや雪を残して霞ける　柳村
霞とてそりくりのくやむらの　也仲
霞むやくも仏弓矢引ふ霞哉　學笠
とろくくして桶の霞哉　湖山
三里まくるのろの霞哉　出羽　琳山
くんくと篠ふのろの霞哉　獲物
牡丹餅をくひて霞む野哉　一葉
霞ものや蒸豆ふき春ふき　了是
花のふり引もり日ふる霞哉　陸奥　子里
針醫者の鞄ふる霞哉　多七女
琴つまをするの軒ふる霞哉　天涯
霞ものやきりくとんと大扉　葉静
霞ものくとり拵ふて霞ける　漾谷

朝霞　山の井ゆかしき人や一夜あけ　蓬杣
夕霞　夕霞こき人のかへりこぬ里　青寥
　　木のほやもうすき松や夕霞　乙二
　　霞立ち雲をはなるゝ夕霞　左笋
山霞　山つゝき牛をもむれりおしつゝ　出羽仙風
　　焚こめや山のうしろの井も不見　大梅
峯霞　一住もつゝむや峯の松霞　一蕙
野霞　空寒き雲むれ行野霞　陸奥与人
紅霞　ほつゝりと入江のあけむ岸の月　石卵
渓霞　折出の渓橋人馬もすゝめり　江戸詠帰
海霞　うすき引上ゆく海の人家哉　竹馬

草霞　一つかもなき荒屋やそのまゝむ　石海
月霞　手燭そも老ぬ八重の霞むも　道彦
春風　春風や初入ふかき竹の戸　蕉雨
　　古里もさしくる時ぞ春の風　素檗　陸奥
　　虫井無ほこりの戸口春風の　桂狸
　　春風の埋やふかき角田川　春岱
　　山をし枯芦を吹春乃風　左笋
　　春風や利根の流をの行全　下総桂丸
　　さつくりと引さく筆や春の風　了々
　　曲くんとおもふ春風や笠てそ折ふ川向ひ　常陸民枝

春霜
残雪
春雪

春風や大津の町も賣物まで　之徳
小車ホ人のさ門や春の風　石卯
春風の落ちくふく汁や　一具
春風や松明迎るかさり紙　涼谷
そよ〳〵も浪のつそりう巣しき　蔦三
ぬるにもくえ雨を荒の角　出羽　貫山
あんうんと日の照相や　寥松
殺仕まうとうぶ〳〵や春の雪　五井
春の雪弥ふる軒の内　素芝　常陸　由之
梅の花根ぬをなし春の雪　つ祢女
春の雪消ぬはあすのたとゑ

春風やてるホくハ雪一さらき　多と女
春の風市の屋敷のさそる　乙二　越後
屋鞘のさゝもハ湖し春の風　石柴
春風ホ松ぬも捲ル山の家　素水
春ぬくく傘そくのとゝん春の風　鶯笠
春ぬや浮役をさむ笠の雲　亀石　出羽
江の鯉ホ猫ふ春ぬや春の風　一海
笠もの利渡もるく春の風　昭雲
春風やふるつの歩し帳ぬ貢　蔦三
いつゝホ雪もりこし春の風　越後　石腸
春風やロ後の野も打きり　道芳

淡雪

雪解

松こ[illegible]
松[illegible]
降雪[illegible]
二日[illegible]
降雪[illegible]
雪こ[illegible]
雪[illegible]
[illegible]

下毛　暁烏　敏
陸奥ノ国　坐
江戸　観斎
越後　宇弘
涼谷
素芯
一蕙
鶯笠
民枝

雪汁
雪雫
凍解

根[illegible]
雪[illegible]
海[illegible]
雪解[illegible]
羽第[illegible]
雪[illegible]
雪[illegible]
雪[illegible]
山[illegible]
そ[illegible]

武蔵　魚連
古蟹
春路
涼谷
思雲
乙二

越後　士雫

水好き
暖
簾

長閑

方居　越後　越塵
栗靜　江戸　栗菴
饅物
馬佛　陸奥　如九
雨塘
八重女
悲巣
鶯笠

佐保姫
山咲

移摩
葉北
松径　出羽
一葉
拇摸
左明

俳諧發句吾都麻布理春上終

俳諧發句吾都麻布理春中

二月　洞海舎涼谷編

一具菴一具校

衣更着

紙帳しく雲ふる朝の二月哉　砧山

御の字もる書院乃二月哉　茅都

等のよし思ひをいふ二月哉　陸奥玉鉉

まよひの雪を降ふかく二月哉、　蕉窓

一重不一重かすむ二月哉　梢六

如月や雨も雪も仕まふ墓参　乙二

如月や私かるる母ふたり　子是

如月や私かるる母ふたり　石海

二日癸
初午

[illegible]や異州の善光寺　道喜
[illegible]や称願寺の金仏薄　夫涯
きそ〳〵ぶハ仰ぎも柳の末の雫　越後　蝸堂
[illegible]や[illegible]傳[illegible]、[illegible]う添ひ[illegible]、路成
[illegible]月のきり今ふなる[illegible]　石卵
[illegible]や[illegible]ふ[illegible]ある男　陸奥　甚人
又[illegible]二日癸も巳し去　乙二
初午や下[illegible]の神[illegible]ふ[illegible]、一興
[illegible]を[illegible]ま[illegible]初午や願[illegible]　大梅
[illegible]ものや今[illegible]札[illegible]　一蔥

涅槃会

涅槃[illegible]や棒へとゝく滝の音　一具
[illegible]ん[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ

朧月

春門へ出かまりる彼岸ゟ　寺節
夏の井戸替ゟの屋もさゝん分　蓉洲
するさゝら呉ふりのさん被官分　二亘
ものうへの一里ゟもさゝん分　一具
咲如来ゟ参ゟまる被官分　八重女
寺御ゟ参ゟのとゝる分　出羽　豹左
夏衆の支度ゟ屑とる被官分　寺猶
婚礼ゟく物ゟもゝん分　ゟゝ女
世の狗乃人ゟゝもゝん分　大梅
参ゟゝゟ被官ゟゝゟ波ゟる　江戸　惟平
甘酒を辻の地蔵のゟん分　涼谷

朧月

振色の二百つゝや地蔵ゟ月　梅里
狗月ゟなりくの糸車　一具
狗ゟゟ月ゟ森ゟゝ地蔵ゟ　庵く女
月狗まれよゟまる島の清　一之
町くの梯子狗ゟ船や狗月　ゟゝ女
ゟの後ゟゝゟ狗月　真国　安房
ゟ臭き月のゟや狗月　平雄
白ゟ糸ゟ一本ゟゝ地ゟ月　汶柳
ゟ小垂ゟゟゟや狗月　古陸　江戸
文科や富ゟ月の地ゟ月　意補
橋越ゟハ海ゟ月のゟん狗月　涼谷

朧夜

春月

一村の家も春乃月　素芯
格や軒端くも乃春の月　了是　常陸
家をこゆる峰もくらく遠里の月　千宵
春の月さゝ濃の迎ひかな　左裡　江戸
引ずる帯も作るのつくや春の月　丁知
大仏よりくらうもる春月　大梅
ちくさくさゝ桐の二もや春の月　寥松　下毛
井戸をふさぬ春の本ふるれ　原水
春は月芭蕉井の本ふるれ　蕉雨
待もうさゝよく人入り如春の月　一具
待もうさゝよく人入り如春の月　杜英

朧夜　漁火のまや春の朧夜　千籟
朧夜や吉次を流し橋のもと　成美
朧夜や橋田沼の古代系　一具　甲斐
朧夜を岸もうさゝ流れの源　重行
朧夜や橋くさゝる寺の犬　ある女
春の月宮居を出るうへ　仝
朧夜をときけを海も春月　可都里　陸奥
ちくさくさゝ数乗の春の月　馬歌
好ふさゝりもの朧夜や春月　湖南
春の月さゝ濃の迎ひかな　久臧
春の月ふさぬ家の朧夜　家澤

春夜

春の月雨こめてくる山の上　雨塘
春の月門田よりもる一しきり　石卵
春の月雲をとぢたる一しきり　小徐　潤里
まつ一ときハまだ雲のある春の月　乙二
春の月芦間のくもり流れ去り　雄嶺　越後
春の月松徒の狗尾をそんて春の月　北洋　越後
二ふし入の春風吾を一しきり　桐坐　江戸
春の月鶯の初音縄　朱潤　江戸
陽田川水西に流るゝ春の月　麻父　出羽
市中も松のありくまで春の月　以文　出羽
江水帰るかくれ家春の月　徳雨
灯を持つ如き家情や春の月　了く
子供等のうそぶき歌や春の月　漢物
春の月やそれへ移る小提灯　甲斐　漫く
春の月や隣の娘東山　乙二　琵琶
春の夜や木陰を家ふり合ふ　乙負
春の月や路もまばらに涼谷　常陸　得雨
春の月やそれとなく江戸　江戸　調意
春の月や棒きれも人の　成美

燕

春宵　素檗
鳥交　門遠し…　桐垂
鳥巣　古ゐ…　天涯
巣立鳥　人の…　江戸 豪山
雛子　物の…　安房 平白
　　　　　　　　　　　戚美
　　　　　　　　　　　通彦
　　　　　　　　古江戸 雨柳女
　　　　　　　　　　　碓山
　　　　　　　　　　　素檗
　　　　　　　　　　　陸奥 一毛

燕　李峰
　　鴛並　湖中
　　きし…　古節
　　松…　越度 田都嘉
　　雛…　涼谷
　　乙…　古翼
　　乙…　宇光

鶯
駒鳥
松茸
春雨
帰雁

表丁
大梅
乙二
野菜
女
天晴
鶯笠
亀九女
節
蕙

雲雀
雀子
春水雛
春鳥

二了　素芯
人々のふ添水日やしづ　桂九
ふるまでをはなれそもうつ　鶯笠　江戸
るかりくに淀松よりそ鳴　湛水
雲雀鳴や一文字の小人形　野巣　伯陸
鳴ふるや雲雀のそぬ淀の景　素鏡
とまでも如し雲雀　白坐
代官の名を洗ふ　叢
立ある杉とも那須や郭公花　雛物
峠ふもふ厳冥日ふりや鳴ふり　谷後
雲雀時ちりくふや都住の　朱潤
ふ春ふ時ふ杉ふもの　越後
知人ふ逢ふくふ春ふ　帰雪
ふ春しまふくふ春ふ　三卒
まの日を何時とも　素葉
雀子のつひふくふ如月春ふ　きく女　下総
きふものや春のうしろ八洲茅原　菓彦
川のをれそ葦ふ雲ふ　乙二
棲るふかやの雲のふ　全
雲のふ　梅令

春の夕べの淋しき折　悟明
さゝ啼きも暁しいとゞまさる　乙二
行掛りの物やさびしの　常陸　靜山
親まふ鳥もなくなりて、湖平
ゆく春ぞ親鳥啼かぬ巣の内　涼谷
よべよりの雨やむ春の名残の時分　下総　魚渕
蝶もやゝ本の花の重る頃　八重女
蝶々や春深き野の小川　天涯
山風の蝶ふかをなくも哉　陸奥　露く
蝶くや花咲ぬ内　大梅

てふくのもつふかき雨あがり　吾徒
名角してそう生まれおその子　守宮　出羽
筆の穂八蝶の毛を月夜哉　吟歩
蝶の影の影もそよめく柳哉　湖中
蝶ゝや物親干る屋根の上　下毛　梅二
蝶の羽の影も小さし　白松
蝶の羽の重く地をはふ　素悲
蝶のつくそよ〳〵と吹　素鏡
蝶ゝ〳〵なれ〳〵しくも　江戸　抱儀
蝶二つ、十両
蝶ゝの二ツをめぐる夕哉　馬佛

蝶くさ一名ちょうせんこ小也刀　也州
院くさ蝶の幕迎むと也ず　常陸　素涼
蝶くさ蝶ひらひら傳のみ　越後　春雄
古語拾遺第七十四段に蝶八姿美麗にして花の蜜を採ハせるものなり　涼谷
自然や蝶ひらひらと飛ぶ　、甚流
綾つまれく赤のまゝ蛇や白い蛇　一具
紙の白ふ蛇の声　信濃　如陵
灯を乗ふ蛇の声　常陸　和琴
里ふり外ふ蛇　道雄

接待て蛇ず　丁知
多用ふ蛇ふ　寝ふ女
蛇ふ蛇ふ　常陸　義六
自然ふ蛇ふ　陸奥　北溟
蛇の数を地ふ蛇　、蘭雲
数取ふ八蛇ふ蛇ふ　子ふ
蛇ふ蛇ふ　常陸　南月
蛇ふ蛇ふ　、柳美
蛇ふ蛇ふ　下総　湖平
蛇ふ蛇ふ　東駅
蛇ふ蛇ふ　天澄

蜻蛉　雄嶺
蜻蛉　東海
蜻蛉　奎洲
蜻蛉　春坡
蜻蛉　五雲
蜻蛉　東峨
蜻蛉　慈棠
蜻蛉　蒿峰
蜻蛉　三鶯
蜻蛉　霍齢
蜻蛉　素恕

蜻蛉　素葉
蜻蛉　抱玻
蜻蛉　乙二
蜻蛉　漫々
蜻蛉　雪笠
蜻蛉　一具
蜻蛉　東暁
蜻蛉　二秀
蜻蛉　雨柳女
蜻蛉　林曹
蜻蛉　多賀

飯蝴
蜘蛛

蜘蛛も巨燵ふる時や秋の雨
あの糸で鳥も捕るやと蜘の
柴の戸や朝顔にかゝる蜘の糸
朝顔を引ばかゝるや蜘の糸
蜘の糸ふりくる軒を田おしき
蜘の糸ふりくるものゝ軒を田おしき
蜘乃糸人を取るや秋の風
蜘乃糸ふりくる軒を田おしき

春もなき物乃名　一薫
物の名　甚多く
山里を七小町　嵐外
名物の如くなる　多き女
深川の寺町辺　一茶
格人ふつゝく歩行　涼谷
すゝしき事ぞ　雨柳女
鹿眉角　大梅
陽炎　窓ノ松
南京を荷ふ　道彦
かげろふや　李下　雨竹
陽炎を　大梅

春遊
帰鳥

陽炎や　一茶
陽炎や　一毛
陽炎や　也叟
陽炎や　一具
陽炎や　乙蝶
陽炎や　涼谷
陽炎や　白雅　陸奥
陽炎や　菅詩　越後
陽炎や　石塵

三年なるおうな住吉あり　大梅

たんの実こそこそのもの　陸奥　雲園

植ゑてこそ戸に入りつるも　薬物

草生ゆる日ぐれ忘れ水　赤悠

海をよそに塩屋ありけり　一具

つつ屋ゝ雑木刈し家野ゝ　乙二

実のもの　常陸　蔵星

もゝをもり物こそ新酒師　墨翁

出代　出うりや寺へ持こす米のれい　大梅

おうそうのそこふかき春の夜　一具

焼野　山焼の火影志賀の浦　陸奥　夕山

山焼　山焼ゝ押ゝくるかもゝゝ　梅二

畑打　畑打や宮の狐ゝ　巣北

畑打のひさし納るもゝゝ　大梅

畑打笠も交や酒迎　雪瓶

田打　田打しくれのあるゝ日　常陸　聡眉

苗代　苗代や巨燵抱くゝ屋の内　八重女　大梅

種芥　ゑのまめくさ二百餘種ある蔬菜の宗
麻苧　種芥ゑ秋の深くある木實
蕁蔣　あさまされふる坊の庵
獨活　そや淋しきおもひを綠くもせうを
蕨　うとの島ゑ秋
土筆　月ふかく
　山もやうゑ生ぬく虛ゑ
　ま蕨や山ふ女乃里ゑを
　庭燒ゐ和つきぬつくし
　おのえの庵ふ出ゑ
　ほつふち菜ゑ知人伯母

天涯　越後
菜蔬　下總
古翠　常陸
一葉　陸奥
也卅　下總
路芳　越後
一具　越後
蕗村　越後
霞江　越後
雨我　越後
大梅　越後

杉菜　杉菜ゑのも春辺ゑ
帚杖　針葉のふこゑ古ゑ
春草　つくしはむや楼の下ゑも
　ゑのものともつゑ古ゑ
　招く蓬ふ春やつくし
　松とひ杉菜とのも春辺ゑ
　いのちり私人ふも曲ゑ
　いつとりやもくと楼の西
　よくのてゑ関ふ春ゑ
　迎られい杉ふ春ゑ
　緊然のふこゑ春ま

東止　常陸
珉　常陸
道彦　陸奥
草路　陸奥
菊鴻　下總
也卅　下總
夜照　下總
草路　越後
成美　越後
文思　越後
古翠　越後

蒲公英
菊
苣
菜花

山葵
煮茹
菊根分

菊植　　苗小苗を植ゑ其年の秋に至りて其苗の長くきくの苗

番椒植　　陸奥　天涯

枸杞　　白旅

接木　　春節

苗代葉更　　雨芳

初櫻　　雄嶺

乙二

涼谷

一具

学陸　雫大

宇櫻

待花　　下毛　一夢

初花　　下総　秋雄

学笠

陸奥　可月

護物

素忠

可佛

成美

素丁

る鶴

蔦三

古寺や鐘もの外の花の雲　古節
初瀬や雪もの外のうきさ庵り　石海
三川南へ急へ出るものみも見　雨塘
初雪や枝つくろふも風の中　大梅
彼岸橋　ありやうもなく引ん橋の雲さへ　全
糸桜　塔山や寺よりおくる雲さくら　一昊

洞海舎涼谷編

一昊庵一昊校

春

弥生　ふるさとの雲もあるらし弥生空　蔦三
　　暫判く海も霞ぬ弥生哉　宇橋
大雑把をそろふ揚る汐生哉　右錦
徐門のあるかなきかの一葱　一葱
上巳　曲水や流れの張ハ出ぬ程　栄都
曲水　よろよろと出ハ坊うの曲り様　道春
雛祭　能一ツ除ると雛の坐りよき　湘中
　　雛棚やふるき汐の香　栄都

草餅　名山
鶏合　卓堂
汐干　桂狸
安良祭　夕山
牛房もて　江戸　寿菊
一具　一只
雨柳女
出羽　亀了
菖三
深澤

素芯
乙二
悟明
学陸　溫文
石牖
久藏
等笠
出羽　陸風
乙負
桂九
一具

梅著集　寿徳庵
壬生念佛　業教寺
永日

遅日

遅き日の一二階より二階へ　陸奥　如鶴
春の日も暮れ行く雪の山　也叟
春日の風も吹くや柳の糸　常陸　有佐
春の日や猫の仔の行方なき　あき女
永き日や畑うつ人の一休み　南歩
永き日や釣する人の川を　雨夕
永き日や亀甲の寿字の井　下総　四明
永き日をやすやすと暮し　素涼
永き日や白う咲くる杜若　陸奥　俳佛
永き日や鶯の鳴く　一具

春日

春の日も暮れ行く雪の山　黙巣
春日の風も吹くや柳の糸　寿徳庵
春の日や猫の仔の行方なき　業教寺
春の日や池の鯉の小躍　下総　竹雫
春の日や鶯の鳴くも　子龍
春のりや秋の野の草も　蕉雨
春日野の移流をすゑ　之徳
春のりや鶯なきの田の畔　風外
春や鶯の鳴くも　可丸
春や白う咲くる杜若　表林

春空

春夕　人のまゝ好しそれも香
焼塞　炉ぬくもとのみ人もあり
　　江戸　素撲　乙二
焼塞や夕部落る雪の色　一具
炉ぬくく寒く淡入る雪明り　越後　乙良　一具
炉ぬくや外面の雪も暗く
伊勢の古寺の鐘も暗く　一具
菜摘　桃人の苦吟を重ねや菜摘頃　湘南　一具
蚕　蚕飼屋の幕引めぐる蚕哉　一具
　　高安　素簾
山櫻　人〳〵人のえらぶや山櫻　大梅
山櫻あらしきらふ里や山櫻　亀石
里ごゝや櫻を人を走りあり　八重女　在江戸
櫻咲山もあらぬとまりけり　五老
まもるもの今とて嬉しや山櫻　椿州
山の井や櫻とゝ家と答ふると　古節
櫻ちと人のまもるも山の外　宇橋　相模
芳野ふ風のあらしもさくら　薫岱
山櫻もの〳〵哀れ花の盛哉　雅嶺
山櫻もの〳〵哀れ花の盛哉　蕙雨
　　一具

朝櫻

山関や櫻あるじのまいり　一具
さくら咲日をたのむさくら哉　雪笠
雪園のさくら咲けり五百里　梅令
海井社もさくらの風ぞなる　一司
山寺の風をほしがるさくら哉　江戸 蒿居
旅の夢をほしがるさくら哉　史千
旅ごころさくらもそよぐ夕哉　素檠
筆ぬれもさくらの夕哉　八重女
一さくさくまくら引さくら哉　宇橘
陰櫻ふむ打ちうちもさくらかな　九二
雪舟のさくらも在村の櫻哉　杉亭
桜ちるうしろもあをき櫻哉　一蕙
信濃路のさくらもさくる櫻哉　常陸 篤支
等都や物部もさくら哉　蕉雨
散ぬまもさくらや人の為櫻哉　戴星
との郭もさくら一本を持まうら　越後 梅仙
美吉野の幸忘とさくら櫻哉　菖三
古人ともある櫻の木のもとに　一具
独の銭をさくらの木のもとに　涼谷
綾ぬくさくらの影を櫻哉　全
影の雪ふ櫻ぞさくらかな　菜兆

夕櫻　　左節
夜櫻　　守光
月前櫻　　兼章
散櫻　　一具
八重櫻　　菓北
遲櫻　　陸奥　馬年
豪山
多賀
左節
素忠
雄嶺

乙二
五亮
出羽　菊三
渭北
凉谷
一具
越後　林曹
辨齋
素忠
上総　里孔
卓堂

石川や　成美
家中一家の　春もふく
旅の空　一日ふりし　風もなし　古葉
そよそよの　其流
遅き日を　陸奥　東明
楽みて　暖山
提重　一葉
ちりそめし　女
先生の　幼名　馬伴
ちりつもる　北溟
伊勢うら　下総　蓼峨
のどかなる　名山

なとまうでそ　素思
もの声や　小柳
かりそめに　月敏
ちるまの　女
大風の　学陸　陸波
あとや　神丸
ものや　大梅
はるくる　未来
ようそそく　乙二
七掃き　谷雄
延命も　麻父
世の　雨魂

花盛

花雲

花曇

花風

花雨

花雪　一具
花雪吹　雄渕
花見　李峰

夕花　出羽　雄名山女
夜花　成美
　青寥
　通秀　江戸
　文鼎
　一英
　蝸堂
　一蕙

一薬
梅令
麓外　武蔵
渓鳥
古翠
素蝶
涼谷
大梅
可負
志節
久臧

月前梅
花守
歎花

行くそ七の品をふむ春の雪　亀石
指折て酒のむ人と梅の宿　大梅
中くゝ月和をまろ〳〵哉　五雲
もの言ぬ人こそ花の友なれや　蓼杜
雨柳女
もの〳〵の人皆花をつゝみけり
玄子
花雲や其ま〳〵の関の戸　石卵
花雲や蒸のこゝろの知る蜂の声　碧山
いそ〳〵と生や酒屋の花の客　霞江
戴度
もの〳〵くおもふそ酒屋の花の客　玉聲
雲も酒屋もさかりの花の客　然葉

残花
桃

花ものかたく　四明
梅ふくみ久米の　寥松
江の雨共梅折て　乙二
折酒をおもふ人の来　下馬
如斗もの折て松乃雨　古彦
酒を屑のさゝ梅の雪　天涯
るの雨共梅古　一薫
梅ふくみ久米の　下毛　寥松
梅折て酒をおもふ人の来　梅渓
梅ふくみ久米の　乙二
梅の雪共梅古　昌三
梅折て酒をおもふ人の来　雨女
梅ふくみ久米の　虫之
梅の雪共梅古　戴度
梅折て酒をおもふ人の来　雪山

梨花

梅咲やちる物惜しき一の宮　一具
本陸奥寺まで続く梅の花　宇都宮
梅咲やもゝすゝきも乏しく　常陸思文
梅咲や毎日干ぬく松の色　一之
望晴や西応畑の若緑し　巣鴨
きのふより多酒うまし梅の香　亀戸
茶会ふた日もあり梅の花　江戸　脱寿
春の夜や人待ち顔の猫の恋　京谷
梅咲やちる物惜しき一の宮　也州
鶯や梅ちる中の一軒家　白松
鶯の飯喰ふてゐる寒さ哉　北洋

海棠

幸夷

一本の海棠や山風の舞ひ　二丈
海棠や山風吹きし花の色　大橋
一本の海棠や山のとり合せ　一具　江戸　起星
いつくしき海棠の蕾かな　久蔵
海棠や山風吹きし花の色　碧山
海棠の蕾ふくらむ雨の朝　鶏巣
海棠や山風吹きし花の色　栗庵
海棠や山風吹きし花の色　一具　越後　野人
海棠や山風吹きし花の色　守光

鶯蛙

未凪花
未達花
雪花
連翹

亀石　一具
天涯　陸奥　与人
可耕　下総　青盛
涼谷　古琴
乙二　陸奥　梅渓
華雨　下毛　久蔵
蕾三　一具
杜英　雨柳女
曽人　甲斐　道彦
素檠　一具

芽花

草麦

蕎麦

梅の華

梅麻

藜蘆

菫

草麦や山の陰なる

又春さく筑波の

山のいやてゝ

草ぶかみ入てまよはす

草深く咲ぬよもぎ陸奥の方

小さきを餌もあり芽出

穀蓮のあかうして

茎ぶかき蕎麦の

まばらなるや寺林

まばらなる梅小

春さきて水の流るゝ

と朝やけ

連翹も

堂ものとろくさゝ

もとゝろく梅

梅麻つゝ

さゝもあるく

のどりもいつゝ

菫や

出迎の

尾花

菫や山の陰なる

又春さく筑波の

山のいやてゝ

草ぶかみ入てまよはす

草深く咲ぬよもぎ陸奥の方

小さきを餌もあり芽出

穀蓮のあかうして

茎ぶかき蕎麦の

まばらなるや寺林

まばらなる梅小

陸奥

起得

梅壽

一具

菅三

雨芳

南竺

大梅

下毛

黒谷

跋棠

素芯

常陸

芹文

雄嶺

一蔥

陸奥

春嶽

也州

乙二

越後

文沖

白戸

雪光

雨柳女

子龍

女子華　　素休

藤　　陸奥　楚白

枝おろされしそれの如や姿乃雪　　等並

巻ゆきを出る新芽や藤の花　　杉亭

垂糸も月を待ちし藤の花　　出羽　涼蔭

藤咲や池を自慢の大屋敷　　栗庵

物の色其香の香の中の新根こそ花の命　　天涯

棟無の掃除済りし藤の花　　志鈴

つれづれをなぐさめ顔の藤の花　　一薫　信濃

出違ふ人もなぐさむ藤の花　　春言

藤咲や世を人念ふ草の庵　　石卿

藤の花　　常陸　久城

鳥帰る　　村峯

雲入鳥　　大梅

嵐をう物も語るうものの声　　出羽　稲州

僧く渡る里や麦うう　　成美

一村入しそれも麦うう　　丁知

小の音ともくの声や麦の秋　　涼谷

泥ちうくの雨も降る雨　　一夏

梅寿

乙二

梅令

春雪
春雨

呼子鳥　子猶　江戸　西鷹
引鴨　星谷　出羽　渭南
猟翁　乙二　越後　素波洲
若歯　寥松
別霜　素葉
　　谷徒　常陸　一夫　秀
　　玉兎

春雪
春雨

春雪　道彦　士繁
春雨　五雲　下毛
　　九二
　　蔦三
　　如々
　　守兎　江戸
　　車雨
　　双文
　　大梅
　　一葉

春人

越後　左栗
陸奥　葦毋

春山

春海

春水

春川　涼谷
夏近　全
惜春　出羽　巴陵
春別　道彦
春遍　涼谷
春暮　乙二
一具
常陸　道彦
左乙　乙二
桂九

新春

杉亭　道彦　了々　陸奥　文翠　可都里　月敏　一具　出羽　志蘭　馬瓢　蕾三　一具

三月尽　桐堂

花もうつろふや今日を春の名残　古節

行や三月そのかたみ　常陸　柳至

啼や四更の夢の名残　呉服

まもや松の緑の深き　乙二

梅の宿の軒端も　陸奥　道彦

まもるや梅のうぐひす　白眺

梅のまもりの老木あり　雪大

陰のなくうぐひす　常陸　岩山

梅の除まで　笑

このまも折ひろひ　古節

三月や風ふきとめて梅不散　一葉

人もまふふむうぐひす　陸奥　世竹

漱入まで三月の　蒲節

雑掃ぐ三月の雪や梅の雪　江三

梅の除まで　千秋

春の曙　菖蒲

梅ふみ折て　卓郎

苔ふんもあるまで　白人

ふり雪をうぐひす　寧松

ゑんまつくさまざまの梅桜　一葱　常陸　貢美
ちるまの花や笠にもまとふらん
まの田の畦あるも入る音清　文葉　出羽　麗令
梅ふるも棟ふるもありまのうち
まめうゑや数珠玉第七数珠玉
翁忌のもつのりよ梅桜　禽文　涼谷

四月

洞海舎涼谷編

一具庵一具校

新緑や新緑も井戸の内に　成美
陰ふかの木間もあるに月に　大梅
飯茶碗ひとつ置くに月に　一具
百年のまもあるに月に　馬佛
年次の小松ふるに月に　全
蓼の松さもあるに月に　多女
移り日もなるに月に　玉翠
二階ふる許梅ふるに月に　手鞠

卯月

初夏
来夏
更衣

弥扇

祐

すこぬきのそでをうく 流丁茶
祐名てきのりをうく 湖中
恋我すがる夢しぬやう祐名 乙二
待の秋よもむつきをまあを毛 守光
石苔の雪うつる祐や 魚栄
きり祐梅を投く物やう 江戸 魚山
いさきよき死骸治う新や祐時 陸奥 尚中
名の鉢をはくうその祐う事 馬和 杜国
妥うあの妻提り祐う新 陸奥 素芯
もう新きでも祐うを取りうを 汀左
祐名てまもやう名の花の 乙彦
雨村

夜衣
活衣
単物
薄衾

祐や祐よう老のうえ動う
秋の墓掃てまもりぬ動祐 江戸 白義
祐名てさえひよりありくちうい 涼吾
なのせ名う人出をつうや宝ち 仝
衣をうえそうやは黄のう衣 業北
おもうう汗の尻れ一茶
侍名しうやうう一茶人の活衣 言帰
面れをくうもう打 魚栄
ますうれ梅投の茶屋公まや 道彦
木屋町の夕雪ちあを屋 麋夫
大川やうみをうまう屋 八重女

三日月や今ゟ屋のあるすゝれ　吾陵
まゆ屋ゟゝれハよゐそゝりゟり　曰人
老の面ゟゝまゆを画ゟゝそ久しゝ　民枝
秤ゟゝき暁ゟ出羽鹿風　乙二
飯ゟゝのまゟりそめゟゝん猫糸　等筥
つゝま鴛ゟゝりゟゝや男のゟ　千鞆

催佛

清佛や人のゟゝまゆ城の塔　蔦三
清行やゟゝひあふゟゝ院商扶　一昊
永ゟゝゟゝくゟもおし延ゟゝ紅　一糸
病苦ゟゝれゟゝ人ゟあひゟり給ゟゝ　竹馬

佛生会

ゟゝゟゝ佛ゟゝ生れまゟりゟり　梅令
幼人ゟゝ遊ゟゝて社詣ゟゝ　下毛 夢渓
居形ゟゝて院ゟゝ給ゟゝ　石卵
新ゟゝ乃老ゟゝ形ゟゝ茶庵生　一昊
茶をおつゝてゟゝても壱庵堂　也等
受ゟゝ入ゟゝきゟゝと名やゟゝも　道彦
受ゟゝまりやゟゝ乗ゟゝても嬉ゟゝ　蔦三
院ゟゝ柴ゟゝて一ゟゝの眠ゟゝり　石郷 江戸
ゟゝ二筋ゟゝ糸ゟゝくゟゝと田ゟゝ引ゟゝと　乙二
ゟゝ書せゟゝん給ゟゝ扇ゟゝ　令
世ゟゝ捨のゟゝかゟゝまゟゝる蚤ゟゝ　林呂

筑亡条

催佛

佛生会

施筆墨

受筥

受巻

受書

夏念仏　一昊
青さし　蔓三
鱶醤　千休
鮓　蕙柄
松魚　蕙女
初鰹　下総斗囿　蕙柄

麦秋　ちか
麦秋や蒋安ろうふなかやしき　一昊
寡ろう　麦ほろろ　蕨栄
麦畑や赤堀ハろくろより雲　仙石
秋垣や麦のあきかぜふほふ　一蕙
麦の葉ようやろうふなかやしき　釜梅
麦秋や蒋安ろうふなかやしき　一昊
山門のろう町ありむきのなき　東休
雲秋やろうの鶏乃妻　仙石
葉の葉の舞ほろろや雲の秋　蕙女
雲秋や畑てのろうふなかやしき　蔓抱
次村ろう法華兼ろう雲の秋　涼谷

麥藺		上毛	乙人
穗麥刈			乙二
青嵐			寥松
牡丹			乙良
			兩塘
			一昊
			蕙兩
			千駒
		下毛	道房
			梅溪
			龍城

麥藺

穗麥刈

一睡の麥刈やさめる程

麥刈やさめる程を忘れ行

江島や月八ツ日の青あらし

吟ふ手ホより吹嵐

あら嵐森麥畑の

一休も毒いきりし牡丹かな

咲るて牡丹さびしき大書院

なつかしく一日ほろゝ枝ほろゝん

大面の牡丹ほろゝ散ほろゝ

きるを向ふ牡丹ほろゝ

新古ほろゝ牡丹ほろゝ

旅人のそよおきほろゝ

撰集のお名ほろゝ

葉内ほろゝ時ほろゝ

ほろゝほろゝ牡丹一株

ありのはほろゝ牡丹ほろゝ

新ほろゝ芍薬ほろゝ

芍薬や新ほろゝ

芍薬

茶麥

豪山

妻戀

八重女

浅野

東義

一具

素有

涼谷

梅令

江戸

秋兎

素撰

苅茅や山の根方の一畑　一昊
うれをつくむる杜若　可都望
杜若手染の糸も鉄色の　陸奥　玉之下毛　鮫
舎のつまハ皆白き花かきつばた　江戸　蒼乙
を刀抜の痺きらめきつゝ
杜若むらふをくゞり人乃　九二
三ツ咲を指のうるみし杜若　素檠
馬のまの息れてうるや杜若　文徳
五つるくれてうるや杜若　天堤
山の井や小芝の中の杜若　大梅
との橋をもるりておらん杜若　女

夕時や染まもらく杜若　素芯
さつふりて厳うちつゝみ杜若　陸奥　菖水
いとまもしてうんまりやうきつはた　桃流
捨こよ領掃うやかきつはた　一昊
末枯十句下りのう筆つきつ　鴻堂
杜若うよ活うるのきつ　土羽　菖若
うまくらや物のうきつはた　江陸
紅を切くんのうしきつはた　佐陸下毛　一桃
永雪待のすんさきうや杜若　百樽
玉うつ雪目のうつりけ杜若　久蔵
杜若下のうつりけ杜若　豪山

花葵
鳶尾花
鬱金

古池やあらそふ事も花の雲
四季とく咲と人はつくとも 芭蕉
咲出る頃葵かつらき川と云
山ちかうしきりなく也葵哉 同
おもひよる疑ふ尾花の女や 素堂
夏草やその匂ひのすゝり水 同
うら掛てまちぬ日ぐれの葉鬱金 一茶
雪集の中と云ふりの葵哉 同
おもひさす心やそれと咲鳥 暁鳥
作ちらし秋形きさろやうの葵 乙二
不二ながらくれなゐのふ 安袋

賢良花
茨花

浪速の家うけ
ちの田て秋る
おもおもしろ
浅生うの丸口
けし咲や村一
拗うの母の
うつもや番の
養庵ほそ毎
そらまめの
田へうもを
山伏のうち

咲ふりうの
うつの
ふりうの
ふりうの
ふりう

卯花

乙二
涼谷
素檠
皎て
大梅
李塵
万菴
陸奥
一湯
也孫
乙二
武陵
東義
古檠

若葉

日をふれハ狩ゐの衣りの楓
うの楓さのあるしの春の馨
朝さをてあるうさくやくく
あるうさくやくく歌のあ楓
里のみの清香
う楓里るうくしあの門
縄の史をつてうそ
あるりて等の
卅さうの等
栄の青み新
る葉して私
う

陸奥
素檠
皇助
子介
蜀三
風車
江戸
周来女
素芯
武陵
東義
宇光
石鼎
陸奥
芦帆

蜘ノ巣のさ一傘つ
病人の髪人形
うまうして新の針
小雪ちらちらする
うす紙の障子
戸口までうす雪の
降るて角病の
あちらこちらもちの原
菊ちよ事て株
雪ちら葉て雪折
吉野の桜のちら

一具
乙人
静山
ちらき
千駄
護摩
葉月
漫々
車両
菜殻

青葉
葉桜
未申茂

石切の弁当つ
一雲井寺
滝もとて葉一結寺寺
切の葉て人
原ちちえて
康て起のこのちさ
葉さや葉の
葉桜や ろてう
ちて や大あ
柴橋ま人
葉今 れて

登山
雉笛
雲泥
涼谷
一葛
矣山
一葛
愁菜
七部
大梅
菊三

川上の仮橋うち跡もなくうち朽
ふる里の八神ちまし寺ふ
宮ちちと寒しうち霜もたけり
墓守うちの農ぬきうち茂り
きのふまで茂る垂ちも落うち
下宮のあまりうちうちり
斤恐と人をつ水うちうち
木下闇うちちのうしうち
蚤松柴くおきうち
都うちときおうち
蚤松葉神のんのちしうち

一昊 江戸
斗建
素芯
あよ女
蔓三
久滅 出羽
妙仙
杉亭
蔓三 武蔵
頑布
あよ女

散松葉

葱冬茂
木下闇

朝花

朝の稲よ雨うち
掃下す銭よ
人ふの溝そ
きうちの糸咲や
牛蒡ふつきー

柚花

陽炎の中小咲うち羽のち
柚のち花やうち
残暑して立人うち
きんうんの糸花
下結棄の招
うちうちの糸

金柑花
枳殻花

春下 陸奥ふき
九畦
一湯 下毛
真沙吸
丁知
朱葉
護扇
守光
之徳
大掬 江戸
蓼渓女

柿花　　西村
茄子巻　　宇橋
初茄子　　栄美
苺子　　望
筍　　森女
蕗　　森女
蓼　　栄美

西村
柿の花ちりぬる後もよや世をあぢきなく咲くらん
宇橋
茄子巻ほそ目に切りて巻せんと思ふ心の程ぞ見えたる
栄美
初茄子ちぎりて喰ふ味噌汁の実よりもまづ秋の風
森女
苺子あす切ると皿そろへたる指の色や紅ぞ見えたる
望
筍や竹の子の義の神垂小見えたる
森女
筍や竹の子の義の神垂小見えたる
栄美
筍や竹の子の義の神垂小見えたる
森女
蓼喰ふ山よ越すとて行く人やつきしも蓼を喰ふ

郭公

郭公ほとゝぎすとて鳴く声の聞きつけたるや初音なるらん　久威
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　乙二
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　柄柳女
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　波物
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　馬佛
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　常陸
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　啄秋
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　有月
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　素竜
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　女
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　紫蘭
郭公ほとゝぎすとて鳴くものゝ聞きつけたるや初音なるらん　五庵

ほとゝぎす藤ノ花ニ居ル時
ほとゝぎすまつ待ツ頃ハ卯月哉
ほとゝぎす初音ハつくづく五月雨
ほとゝぎす聞ツ聞ずツ雲ノ上
ほとゝぎす鳴やつまくれる恋ノ数
ほとゝぎす女郎ヲ紫式部ノ書ル事
ほとゝぎす忘れて去ヲ松ノ月
ほとゝぎす飯盛ヲ名ノ下モ
ほとゝぎす杜宇ヲ名ノ山家ノ客
ほとゝぎす名ヲ鉄砲ヤトまでもしる不思議
ほとゝぎす時ヲ務ル武士ノ神祇
ほとゝぎす聞ツ聞ずツ人ノ心
杜鵑啼ヤ茶ノ湯ノ朝

○十二

步ね
稷山
四村
雀宮
雄鳴女
一茶
下モ
蕉水
朱潤
大物
湖山
一具
素休

ほとゝぎす声ヲ名ノ数ヲ問ル
日ノ入ヲ待ツ
末頼ノ雲ヤ
百里ノ海ヤ里ヤ
久方ヤきゝぬ夜ノ
影ヲ残ル
杜宇ヲ名ノ
招ヲ西ノ
山寺ヲ
小児ノ書ヲ
子規哉ヤ

常陸 夏木女
素芯
路麦
名人
奇梁
寥松
了是
涼谷

鶯入音
老鶯
鳰鳩

ほと〳〵き寺 楓のま彫のほろ〳〵と
雪やきうぬ彫うたゝねなりし 支
うぐひすの老こゑ 仝
老を啼 雪きえ 古聚
雪うぐひす老 万塵
うぐひすや老 秋免
山雪 雪もとまぜや 朱芙
雪うぐひす啼 出羽 梅年
ありきのふうぐひす雪 宇喬
深雪 苔うぐひえあり 朱兆
うぐひすあらん 渭如

鷭
通一鴨

有明のあうち 八つ谷
綾馬うまて人 柱九
町の月 文梅
雨うぐひす 古聚
大川八つ谷 陸奥 素芯
雪うぐひす 象俟
毛やく 啓山
相尚のはうぬ 泰休
江の樹八 護物
彩てあう 一葉
行雪 暮三

夏鴨
剖葦鳥
蔑剖
蒼鷺

居ながらやうきまのかも　江戸　太嶺
きゝ乱るも形れハ深しやりうま　石鼎
杜のあるく姿やりうま　杜朝
あとを追のまこまの人のりうま　等益
唯のおほきものやりうま　月敏
りうま切さきしおもあり　宇商
汐さきやよし切さき楽風　道彦
よきものの峰や赤よ入海の塔　古聚
よし葦やみ水隆るあとの今　涼菟
あら残暑や隆る八ツ川風う吹　魚こ女
まさきやら仏臭き舞　涼岳

○十四

枝蛙
籬鶯
子子
蝸牛

葵埴　棲のまゝ形のさゝやかる　一笛
えきゝ我しそ八まで葎　冥々
ひきのふくまの逢より　道彦
えきゝれる月まで人よ似うる条　桑老
ほうゝ蝶と形きゝ峠む虫　乙二
子子葉子のまの形うひうり　宇光
子葉子のまの咲をまて　乙二
かゝ家ほり洗茅ふ家の咲をまて　雲英
日のう条枝やうまひうり蝸牛　霧鳥
うつまりふうつ形色八枝洗　鹿太
うくまゝりうまを　蝸牛　嵐峰
鬼葵う袖よりうる蝸牛　伝流　雲堂

俳諧發句吾都麻布理夏中

同海舍涼谷編

一具庵一具校

蚰蜒

よく涼をよこす家也蚰蜒

古疵ながらも数珠つなぎ蚰蜒　越後　董水

糸卅もうしろにつるる蚰蜒　成彬　雪雄

うつむり人のうしろ世を木ろ彫る　牡女　鳴鳥

蚰蜒やサロあまりし社月の反　雄成

蚰蜒蚤も多くもかくれす　涼谷

蚰蜒

蚰蜒敷句吾都麻布理夏之終

蕉雨

雛啄

鳴鳥

雄成

涼谷

悉業

五月

雷の声ふかくして　船山

梨漬人私地一つまる雨ふり　越後　董水

糸瓜もちそ雨ふり　成彬　雪雄

旅人の傘を彩麗る雨ふり　涼谷

新らしく数ふ戸の川　素架

古刀飾るも午時ころ父ふり　子介

菖蒲やあの斜ふりを　乙二

掾も彫やあやめの平社祝ふ　二丘

皐月

端午

菖蒲

一松沙翁小
菖蒲古刀　百姓のさしも　子猪　陸奥麦粉
菖蒲賣　あやめ草　武門かゝる　一茶
軒菖蒲　茅葺の影も　あやめ草　馬佛
菖蒲湯　小豆粥もなき　風あり指あやめ　成美
菖蒲沙や　菖蒲沙や　ふくあやめ　了く
叩地打　旅人のさり　ぬけり　乙二
粽　さゝくと　粽小ほとく　出羽不材
　田の字を　粽小ほとく　巢北
　古りを　粽小ほとく　古翠
　　乙二

職

藥日
かぶ競馬
竹酔月

酸さうや乳を粽とく　素逝
粽ゆふまぐれ　全
る事多の私よ
琴のゆの窪山
ちまき捨てく母よ
児達のあもと
下さ町のさ
莫大小の
吸る表をさ
材乎も競さ
我梯（卅）

子戸　蘭の女
練圃
大梅
一具
富三
梅令
出羽　五明

蓮

真菰刈
蓮浮葉

水捲て魚吹ころまこもかり　　葉静
捲る日を知りぬ蓬八咏乃鳥　　角よ女
竹捲くるえてものや岩切林　　宇橋
水捲て小捲の径寺塔かり　　葉夷
我売をとりあつめ新き水捲ん　　蔦之
むすふ事なきもの刈跡　　乙二
蓮一葉くやうれしきもの数　　公
見のものは百ヤはち千の一枝葉　　蔦之
まち子等や西秋の月のおきまち　　林巴
くき葉や魚のかくれを守りけり　　道彦
月秋ふ蓮ひらきものや蓮　　素堂

蓮の雪や見まもる西る葉葺後　　如猿
まち子ゆふ起て水炊あるし　　茶非
秋日の古き紅葉をまくる　　五老
両戸々鉄をさしくし蓮老　　一具
多よる清水那ら蓮花　　桂九
月人をまち風情なり蓮兼　　角よ女
吼犬もまつ風情なり蓮兼　　茶非
廣沼の二分と咲蓮ら水　　茶美
葉雨や多くの老　　松蘿
庵の老て梅干の老　　右節
蓮花あ秋すまる西る　　千軟
蓮ら蓮花あ秋すまる西る　　護物

藻花

苔花

蓴

紅そのまそりやまその糸
葉を切るうもとふ入ぬ鉢の月　伝佐　枕隠
白葉や紀伊國坂の秋の雨　江戸　白圭
ものそ形やさそひそる琪公形　涼谷
ものそりあつあんものや雲の事　茅北
うきそきのようそんしてさきふり　武蔵　菊之
風そつや降ふ打ちきり汐より　漢學女
うきそや摸集しそ義馬の上　雄淵
篇や雲きれも歌集不二山　大節
苔の色のまゑりのさそり形　馬佛
井篇う痕おきハやすと苔の緑　規外
　　陳丁

百合花

我やとハ表さそ名面るゆるそ茶　成美
不合のそ形あそれそ美形　二子
云とりこまそやそ面不接馬形　雫嶺
脇の千ふ吹形やそ面接不合茶　壬子
焚捨し生木烟そやゆそ色　大海
切てむ不合そもそ面不接う形　和生
見そそもよ日のそ千形や不合茶　篤山
不合をれハまふそ面接不合茶　年良
かりふや接近もまそ不合そふく　我茶
山の百合まぷんと葉のめそふそ　有月
ゆり接そ後の内茶て門シ入　涼谷

紅蓋花
蛍菊
紫陽花
躑躅

月ごろを経しても屋のつま
夜ごとまつ人もなりけり
那つまきそめ来さらきす鉄砲ちる
なきくやはよりくる九折坂
あはきく城のそりや夕日表
あちさゐよ夜々来よりり山の町
紫陽花の葉ひけしおの露
ひとりちめや狂蛍のつゆぬ屋の壁
なく物あやまちを垂る蛍の声
那てまつまるや蛍のちさくもち
投るのりうちうちうちの松

江戸 杉秀
桂理
頃布
東義
守光
道彦
丁和
乙二
大梅
蓬州

埜撫子
常夏
石竹
瞿麦
酢漿草

投子の那そも笑の咲まで
那そ一まの投まの声
まの多小蛍投まの日かげ
るあやなそ
おのさく井の井
小蛍をもあて投のかさりい
余のまは名の投子咲まり
よま那つの日南八馬も人投子
せきちくの投まも人を垂そり
きぬくやうやつるもきま変
かの声みの笑ぬるる蛍の事

大梅
梅渓
素堂
星布
一笑
可久里
乙二
道彦
日人
一作
巴蛍

栗花
柱花
皐月躑躅
合歓花

葛若葉　相生
藥　乙二
あぢさゐの毛深くそり返りて赤みある花
夕月や馬の鼻ぐり　馬佛
苔草　菅之
蠶豆　一具
青きさやいちじるく膨れ出でたる
南天花　乙二
山寺や思ひ出したる鼓いちじるく膨れ出でたる
青梅　素檗
実ざねを手折る袂や黄の梅
人や来ん茶うち折れし梅のおつ枝
あぢ花や数奇を大工の小指竹　高安
南天のそれ小書の行事かな　一茎
たんでんの紫ふかく　涼谷
栗花
咲きつゞきたる花の光
又さゝ枝さゝ葉のそれ
山伏の旅ごろもの如く栗のそれ
切焼てあをかりしの芯　栗花
雨の生をのがれ出でたり椎のそれ　太節
里のものゝ如くやさいの茶　素檗
椎の花　高安
椎の花売るよの茶　一茎
秋の気のつゝきそめたる　涼谷
小庇より皐月つゝじの出でたる　太節
合歓咲や松の山橋もほのかにて　素檗
合歓咲や松の山橋もほのかにて　守光

あてやかに茅花ぬき祓ふの茅ともいふ
祓ふさや茎のからすけ
里の子の高ひたひそ紙ふのそ賜
今朝の一日朱小田重久
ゑもち形や苔の小袖妻小青麦
橋やきう祓やう苔ふきしく
橋の雫ふ如くとりぬ釈の椎
き形あふち雫おもかふあてそうん
大ち八筒ゑの作形りゑ木立
ゑ須て撰ゑ木立
ゑ松ふ日のまきりゑ立

萬之
田舟赤
下紘
七椚
廣陵
笋美
萬三
子人
萬三
一茶
発茶
出羽
呉秋

若竹
茅花
竹供養
瓜花

弟子を出すく少家や高里
親村を寺ふく墓ふ
一村を名ふ弥ふ
ふりくと地震ふ
り蛭ふ弟ふ
ふ弟ふ高ふ
若所の雫ふ
雲園の弟ふ
仏の法新ふ
ゑ屋ふ塀ふ
塵ふ如ふ

乙二
古節
一具
古賀
学笠
座奥
萬父
斗南
武荒
下紘
了都
遅巌
一具
秋鬼

胡瓜　茶の華そめるころより　曉花
粟蒔　粟まくやそのころ雨の　乙二
早苗　そら風ふきやそのころ雨の　越後　昇魚
　　ふりくらしそして八日の雨の　有月
田植　三井もそろそろ苗葉の　多七女
　　大把ふれハ海をこす雷の　月敏
　　市心そろ〳〵そろえ処　涼谷
　　交番もそろそろ田植の　耒木
　　川上の田植うつりや家の田植の　菓兆
　　法花経へ苗を田植の　蕎三
　　庵を田植の　袁休

田植唄　杜年
青田　素菓
　　素芯
　　資
　　茅里
　　一昇
　　涼谷
　　素芯
　　了是
　　文笥
　　宇光
　　袁休

蚊

蟬

田草取
早乙女

戴星
一具
江戸 素人

牧柱
牧遺小

蕎麦切小屋して出れハ月夜
柱多勢をもとめて呼れハ那く坂ゟ
坂の拝の月よろこぶ小橋ゟ那
坂をしらぬ宿やくるの事哉
とりよせ蚤小坂の那くゆく
松ハの戸ハ坂の春雪まつりうり
かたらや那そて年こし松の小
山風や坂やりくる那川ゟの上
うやりやまふきあくる法ゟ髪
納所の背戸ゟもゟ坂越春
松山や一樊四そてある坂やり

艾屋
葛三
五老
出羽
知今
越後
松汀
梨南

桐生
素檠
一葉
麻布
百瑞
乙村
乙二
千貉
ゟ女
素迷
鳴塘
素堂

蚊遣火
螢

行木女
去聚
(能登)
北海
(破奚)
其之
棻美

蠅

蠅帳

水雞巢
鳰浮巢

鴉川

水雞

水の茶をくらくせよ八雲哉　　隼絵
苔の戸やそもそも寒き峰ごえ哉　　道彦
片ひさし小戸をあてゝ夏籠　　民枝
水雞なく三河は昨日消ぬれハ　　一葉
畑打すぎやくひ那のものひ峰　　車両
筆の佛の戸をそゝきくる那ゝ　　業兆
川越て河内のさ雞きく夜哉　　谷逸
明ぼくもさ雞ぞ夏のさびしさ　　家美
挨拶のまだ来ぬうちてさ雞鳴　　双朗
くひ那ゝくひ那ゝくひ那ゝ峰の絵灶　　舊兩
湖を夜の明ぬさ那ゝ水雞　　千香

鴉川

ゑ那ゝ那ゝ一つ那ゝ雨のうち　　洞月
雨ながく出ぐくる那ゝ那ゝ月夜哉　　楽谷
夕や雨の片ほとゝぎす杉川へ　　乙二
小姑の髪結ぬうちに杉川へ　　茶彦
夜あらしやまだ寝ぐらかひ那ゝ　　大梅
戸を片しそめてもくらき那ゝの舞　　馬年
雨のくせてさゝらや那ゝのこゑ　　多女
青ハ生れ身をかくす那ゝ那ゝ　　務令
那ゝ那ゝの法くく那ゝ那ゝ　　小義
那ゝ那ゝや那ゝ那ゝ那ゝ那ゝ那ゝ　　石卵
くの舞きえて那ゝ那ゝ那ゝ

三日月の形ゑのごとく
以左手かくるごとくして
射向ケたる形ゑのごとく
かくのごとくして
川岸毛四手越えんとの体
羽抜鳥
あさのごとくして
多くは来ることなし
かものごとくして
うかぶごとくして
谷越ゆることなし

鵜飼
鵜翠
羽抜鳥
鴨子
鹿子

(後閑) 茅汀
(前坂) ちのう
涼谷
葛之
台く
一夏
久城
涼谷
葛之
葛ん之
(上毛) 浦人

照射
火串
蛇脱衣
鼈

まや松のごとくして
看経を唱つくるごとく
ゆふべれの行ごとくして
篝火のごとくして
火串のごとくして
あまれるや
さ雨くらき夜ごとく
多くの松
古塚ごとく
多くさわぐごとく
雨の垂夕線香のごとく

(陸奥) 雅岌
(出羽) 司暁
泰休
乙負
葛之
(陸奥) 素薬
之瓶
可布
(越前) 一茶
水
幸雄

五月雲　梓弦の事を語りつゝや五月雨　雲静
五月雨　五月雨を行とも氣高の帋衾　道彦
　　けうあれや何日も詮ひし私の仮　二了
　　さみだれや　西も東も　李流
　　みだれ髪や　尊の　久滅
　　五月雨の　ふる尾も　乙二
　　さゝれや　ぬりて　橘刻
　　卅棹　其日より　千船
　　けうあれや　内裏うち出る　八重女
　　むさし野や　終に　一茶
　　を涼す　我木の　夜照

梅雨

義うの事の鬼灯さまの　桐生
五月雨をうすれんとつゝ　武曰
川のきくをゆるやみ雨　素芯
城の天を待ちわびや　一司
けうあれやなの　梅仙
うちあつゝ蕃の　一蕙
さゝれや　利根　啓山
五月雨の　凉谷
一日ハきえぬ　大梅
入梅の　英之
山本ふまる　杉亭

五月會　平雄
舶風　長歌　藤和
五月晴　一蕙
五月雨う兩　宇摘
半蓑笠　太瑟
　巴蛍
角力ゐる夕月のさす入梅う野　千駱
梅雨ふ入ハ魚住うらうらと　布席
雛の鳴さくれもゐ梅雨ふさし　宇光
ト糸やっ搆つ　さつきやく　梅令
きらきくや後ふ寵のあ
五月晴うのあるひ乙ゑ
住うれのうれて蝶とふはるふ
新やうふ門のさ住家時
ゐうり何の巻うも　虎う兩
味噌の住ふ持てとうう
ゐ梅うのあうくゐりねさ

短夜

夏

うう表を兩ふりゐ　乙二
みしう表やいつ返若き　貞風
短表や　達ふのゐの第一杯　葛三
うしゐ表もゐうふ　女
うしう表小世伽ゐうり　憲藥
みーか表そそもゐくてゐるゐ　味美
短表をかさまりて　善人
ううや大堂のゐ糸ゐの世ふ　道彦
みしう表や殘ゐのゐ青山撒　久藏
うしかや三味殘ふ蝶のうふ　葉兆
山寺や表のうしうふ　一昊

明安夜
墓秋

夏月

墓月 佛名
二階ゝ本橋 龕ゝ
ゝ晴てまのゝく
小道やゝり
秋ゝのゝゝ
森てきゝハ末
門掃ゝ
我ゝ
香ゝ
ゝのゝきゝ
行ゝ

ゝゝ秋ゝ階ゝ
あきゝの明や
那ゝのゝやゝ
墓秋の明ゝ
ゝのゝゝゝ
きゝの秋ゝ
ゝ秋や等の
ゝゝゝ秋の
那等ゝ秋
ゝ等や
森てゝ
ゝゝし

素芯
素簾
葛之
兩柳女
朱美
茶彦
菓兆
素簾
百非
一蕙
太橋

兩籟
夕節
芽之
等女
草水
馬卅
對山
乙二
之徳
啓山
橋太

蚊帳

あまたゝび寝るも惜つゝ五月
殆りやく小老のこゝろえなり　蝉の形
入るまでをつゝふもとゝの事
川狩や蝉と集つく名のごとく　久隆
歩くも殆る旅屋の夏　蝉啼て
旅屋の夏蝉啼ふるまでもなし　芳
蚊の来をもしらで寝し一張　破れ蝉
一人旅屋月ぞうるさき殆なる
風をまつ扇の内の旅姓哉
母の事かくり出るものゝ
汐う勢のほうくとうるさき

漫々
奴丁
寥松
扇令　久隆
知声
鮫茶
雨夕
乙綱
杉外
三平
秋兎

紙帳

雉子

少やくと秋の明てあり　秋の蝉
旅屋をあく浅中川の名ぞ
くやまれて涼しくもあり　旅の節
山う勢のふまでゝ冷つく旅姓哉　旅丸
蝉つゝぬ赤城をしるや二三日　五雲
乾瓜や蝉もまぢまり菜客　護物
涼切を見おほせる紙帳哉　秋耳
明れば旅姓をうむ木下哉　北洋
姓ふまれ切り新の雪
かゝれふ蓑川風のまゝ哉　音之
うゑもふまぬ庭小路　太節
乙二
双湖
素然

かくらや盃をめぐらして賢命をあつむる堵
唯ゑらく〳〵夕日すゞし〳〵や芋の風　麻呂　北呂
盃をのかくる岸の松や時の雨　千枝
此葛もまさ〳〵しき性子小名おくれ　寿女
入れのこす蓮つくり〳〵やなおあり　女枝　東義
砂川を力ちからや唐なす磯　松呉

俳諧發句吾都麻布理夏下
洞海合涼谷編
一具庵一具校

六月
六月やきものゝ名の古
六月の松つくゝきあしく多武
六月やたゝくゝ数寄を重ねる
六月やまのかの新涼
六月やまゝ不拘こゝをしく
六月や桃のこゝろ庵
某ゑこゝろ六月の雪ぐく
こゝろ六月や雄雄しき雫

書三
月敏
丁布
子格
謝堂
素檗
一具
宇弘

氷室守　もりもり和郎てもあるりそを　舊笠
氷餐　氷餐幸しきりてくなるりそり　乙二
夏氷　ほそりくと氷をやきまし　久臧
氷餅　もやそやそもまそ氷脈　葛三
一夜酒　考えず赤の餐まむくあり氷脈　一蕙
冨士絹　村中ふくめくやそ和酒　栄北
低圍會　彩色さそ酒し一和酒　陸奥 欣雅
低圍會　低圍そやそ庵の風礼弥さそ　素葉
低圍會　低圍そやそ人のき格の上　久臧
小田系不勢者の和さまる二行　一蕙
冨士絹　お数もなくそのとりぬ衣二行　丁布

土用
土用　伯父伯母のもそふあるくな男名　古翠
土用　いつそくも杉を根つす一古衣人　和琴
土用干　古干の日毎ものあるもそくを　葛三
土用干　もし干や望餅　葬布
土用干　そをりくられるものも　若侯
土用干　はそまりくも干そもも杉人　相模 三松
土用干　さびきのく格のそ海のそ　乙二
土用干　野の生そ保とくあつそ　宝路
土用干　茶を限くくとりる室　一蕉
土用干　室日の新を退物を鋤物　ち美
土用干　室日や山の行法そ合せり　大梅

暑

冬天
日盛

夕立

雨芳
雲葉
古琴
子の女
素悠
守光
麻文
孔
碧葉
子籟
馬角

成美
車座
素葉
古帥
一昊
素悠
碧葉
鹿古
阿恵
梅令
夕山

扇

雲堂　文城

雨乞　涼谷

雲堂　寛路

入彩や常もかはらし雲の峯　文泉

菖蒲葺く日も御祓ふつゝ雲の峯　一具

玫瑰をあるじ顔なり雲の峯　出羽　渭貞

法隆寺嵐もあつし雲の峯　常陸　井和

雲晨のごとくなりし雲の峯　愛山

雷かとよろこぶ秋の雨雲を　涼谷

雨雲物のごとくなりし雲の峯　道彦

ひとつ雲ひとつ雲の峯　馬湖

うつゝなき川上の雲の峯　素檗

芦分くる川上の雲の峯　陸奥　半渓

扇

扇かな柿の葉ながら青きまま　道彦

芦分くる川上の雲の峯　馬湖

菖蒲葺く師の扇子にて風を　素檗

彩のほとりある扇かな　陸奥　半渓

蕉雨

団扇
汗
汗拭
日傘
蝙蝠
涼
竹婦人

涼谷
友木女
一茶
双湖
汀左
守光
涼谷
佐渡 貞来
乙二
陸奥 有水

栄北
菊三
一具
乙二
宇猪
桂理
きく女
常陸 素白
弥生
白戸 相我
李酔

納涼

風薫

新水　清水

風雲の気や鶏鳴の暁仕　乙二

秋風を怖れ給ふや大徳寺　ま籟

おそろしや一声せよと松ふく風　一竜

おそろしや曽我の事共や夜の雨　松徑

おそろしや伊勢の夕立石の卵　ま籟

おそろしや野の我々八郎為朝　陸奥　一仙

一雨ごとあらたまる軍ふまるゝ人の跡　其流

あらたまる波の秋や蓑虫の声　雨村

蓑虫の音を聞ふ事なき雨夜　冥々

駈井　菩水　冷麦　水粉　氷飯

駈井や雪を入させ給ふ程　漫々

松風となふそよ〳〵と清水　常陸　其春

掃除して清水を汲ふ女哉　陸奥　士由

駈井や雪をたゝへて氷る夜の　ま籟

菩水や雪のこゝろの夜の雨　乙二

冷麦や雪のそこなる水の色　冥々

水粉や雪の如くに松の雫　涼袋

氷飯や雪の様なる書院　路栄

冷飯　乙二
香薷散　石瞻
百日紅　去芳
菓柳　梅今
葉柳　佐渡　亀石
土用芽　上風
淡雪花　つる
出羽　ゆとろ
蓼三
秋兎
素檗
宇湾
也州
古翠
雄渕
了〻
乙士
隆物
江戸　鴻齋

河骨　河骨や寺の屋根の漏ふよひつれ〻ぬる〻
蓼菜　蓼の伊勢
夏艸
春芝　春芝　家毛
藻花　藻花　藻刈
麻　麻　麻の雫
麻刈　麻刈　麻の雫

蕎花

蕎刈やそこらをそこら行く人　乙二

蕎の花一すぢ清き流れかな　召波

行水や流れ行く蕎の花　大魯

蕎の花ふるき家やこぼつ音　江戸　文爽

蕎の花一村を蔽ふ女哉　ゑよ女

蕎の花ところどころの一村や　雨村

蕎の花幾すぢ流れ筏道　馬瓢

蕎の花一輪ありて雨の日の　谷迷

蕎の花一輪ありて雨の日の　谷迷

夕顔

夕顔や夕こそ来れ八つ半時　巣兆

夕顔のまきつく小家哉　素人

夕顔や井の上小家哉　芝蘭

夕顔ふるき納屋の板壁　白圭

夕顔やむら雲の影行く夕べ　緑圃

夕顔や棚の外なる夕べの雲　玉兎

夕顔や棚の外なる夕べの雲　玉兎

新麦

新麦や蓮葉ながら蓮葉の味も哉　素葉

新麦や蓮葉ながら蓮葉の味も哉　素葉

所柄や隣数をも一つ家　道麦

所柄や隣数をも一つ家　道麦

火取虫　蛍　蛭　蛸　蜂虫

所の雨やこと
ふくと所むく雨秋のゆり分
所小屋を庭千たり日の雫
海原もあくぬそめてとり虫
火とりの虫をさそうとり
うもつけふ雨のそ格屋り
まの数のとりそ雨の跡
雨の行かたくあくふ流れ分
きしそをねくふ湖の跡と
山をも人もくるよ秋のそ
雨もも雨もそる雨

掌陸　宵晴　恋薬　雨柳女　菖三　素芯　沾橋　一葉　素葉　乙二　寿

〇四十二

秋も新つる雨を清しり
川狩のその屋をふくそ雨
あくぬ送りものそ汗雑
蛾・そのそくふ湖も汗雑
橋その人も雨秋
もの雨を伸しふ湖多雨乗
多屋の秋をぬくそ雨の秋
清後川湖くへ雨のまくく
村雨ふ坊のくぬくそ後分
ふくそ雨もくふ雨ふなし山後分
清後川雨そくふ雨千ふ越久
雨

山花　五渡　篤二　古橋　古筠　素葉　成美　名海　乗薬　大梅

川狩　神鶏　祭　雷神楽　清後

名越　雨垣
形代　乙二
芳輪　一茶

夏寝　素堂
夏夜　五明
夏山　乙二
夏寒　蒼静

夏野　翠桐
夏海　成美
秋待
晩夏
夏雑

江の島　傘こそかくれ冬ごもり　菓山

箱根　霞を関もこえぬべし　一茶

塔の沢　風もそよぐや文章会　陸奥　朱谷

きぬぎぬの別れも吟じ角田川　稽遊

ともをもとめて杉菜摘む　雨塘

野の末ふかく入りてぞ尋ぬる　道彦

俳諧發句吾都麻布理夏下終

今人詩句東風原

梅洞舍涂谷大人輯

一具蒼大人再校